

茨木市立西陵中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和3年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ②書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ③読むこと | 概ね良好な結果であった |
| ④言語事項 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

基本的に正答率が高く（最も高いものは90%以上）、無解答率が低い。（最も低いものは、0%）記述式になっても無解答率が低いのは、普段の授業や定期テストでの取り組みの成果ではないかと思われる。

分析

基本的に正答率は、全国・大阪府を上回っている。（大問3の4以外）
上記の問いは、条件が二つあり、それを満たせなかったと思われる。

良い点としては、無解答率が低いことである。その他の記述式の問いでも全国・大阪府と比較して低く、普段の授業や定期テストなどで自分の考えを書かせることに取り組んでいた結果だと思われる。

全国・大阪府より上回っているが、学校内で正答率が低かった問いは、大問2の1である。二つ答えを記入する問いであるが、片方だけの正解まで考えると、多くの生徒ができていた。

○●数学●○

(領域ごと)

①数と式	概ね良好な結果であった
②図形	概ね良好な結果であった
③関数	概ね良好な結果であった
④資料の活用	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

本校の特徴は、基本的に正答率が高く、無答率が低い。

- ・もっとも正答率の高かった設問…7(1)
- ・もっとも正答率の低かった設問…8(3)
- ・もっとも無解答率の高かった設問…8(3)
- ・もっとも無解答率の低かった設問…8(2)

分析

全体的に全国の正答率を上回っているが、資料の活用に関しては下回っているところもある。1回目の緊急事態宣言期間にプリントにて自宅学習させ、2年の1学期で簡単には復習をしたものの、問題演習を十分にできていないことが原因と考えられる。

また、資料の活用に関しては繰り返し学習する機会が少なく、他の領域に比べ、課題があった。学校の授業内で、卒業までに再度復習していきたいと考えている。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・全国平均と同様に、無解答率は昨年度までより増加している。
- ・選択問題に関しては全て無解答率がゼロだった。→できる問題から解くことや、1問でも多く解答しようという意欲は育っている。
- ・「1, 2年生の時の英語の授業では英語で話したり、書いたりして自分の気持ちを伝える授業をした」と回答した生徒の割合が全国と比べてとても高かった。今回英語の調査はなかったが、日頃から自分の考えを英語で話すという習慣は間違いなく学力向上に役立っているの、継続していきたい。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・国語、数学ともに解答時間が足りなかったと回答する生徒の割合が全国平均と比べて低かった。このことから校内外のテストに慣れていて、テストの際の時間配分が得意な生徒が多い結果となった。

〇●取組み●〇

【学力向上に関する取組み及び質問紙分析】

- ・「自分にはよい所がある」という質問に肯定的な回答をしている生徒は全国平均より高かった。
 - ・家にある本の数が多い家庭が全国平均と比べて多かった。校内で取り組んでいる『朝読書』も含めて読書習慣が問題の意図を理解する力や国語の長文読解に役立っていると考えられる。引き続き朝読書の取り組みや、国語の授業で取り組んでいるビブリオバトル、図書委員会によるオススメ本の紹介などに取り組んでいきたい。
 - ・学力低位層の底上げのために（コロナ禍で実施が難しい状況も考慮しながら）これまで続けてきた毎週木曜日の『放課後学習会』は継続的に取り組んでいく方向で進めている。また、全ての学年において『定期テスト前の勉強会』も実施しているため、提出物やその他学習意欲を高める上でも引き続き実施していきたい。
 - ・「1, 2年生の時に受けた授業で生徒の間で話し合う活動では話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分と同じところや違うところを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」という質問に90%程度の生徒が肯定的な回答をしていた。このことから授業の中で発表する機会を多く設け、なおかつ自分の考えを伝える方法の指導ができていて、力をつけてきていると言える。
 - ・「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合が全国平均を大きく上回った。モデル校として道徳が教科化する前から道徳の授業作りに積極的に取り組んできた成果が表れた結果となった。
 - ・上記の2点をふまえ、各教科の授業や道徳の授業等における『教師間の授業見学』の継続的な実施を進めている。また環境面では、『授業の目標やポイントを示すためのステッカー』を全教室に常備することによりユニバーサルデザインの観点からも配慮している。
 - ・「あなたの学校で、コンピュータなどのICT機器を他の生徒と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用していますか」という質問に対して、全国平均と比べると頻度は少ない結果となったが、9月の分散登校期間にオンラインライブ授業を行ったことなどから、10月の現段階ではその状況は改善されていると考えられる。
- 今回は質問紙の分析も鑑み、校内の取組みを精査した。学力調査の結果も意識しながら引き続き実践していきたい。